

肺炎球菌ワクチン接種に対する当院での取り組み

長崎腎病院

○植木秀一 米田千恵子 下田美智子 久保純子 白井美千代 丸山祐子
澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

【背景】

現在肺炎球菌ワクチン接種はほとんどの自治体で公費助成となっており、日本透析医学会のガイドラインにおいても推奨されている。

【目的】

維持透析患者に2種類の肺炎球菌ワクチン接種（PCV13;プレベナー、PPV23 ;ニューモバックス）を推奨し、患者意識を解析する。

【対象】

当院の60歳以上の透析患者242名中、有効回答が得られた患者181名。

【方法】

対象患者に2種類のワクチンを接種することを推奨し、①2種類を希望、②どちらか1種類を希望、③希望しないかを調査した。

【結果】

対象患者の平均年齢は71.3歳であり、ワクチン接種自体を希望する患者155名（85.6%）、希望しない患者26名（14.4%）であった。接種希望者中、2種希望者は101名（65.2%）、PCV13のみ21名（13.5%）、PPV23のみ33名（21.3%）であった。また、対象患者で本年度PPV23公費助成対象患者は74名で、うち希望者は57名（77.0%）、希望者の約半数の26名（45.7%）が、60～65歳と若い傾向にあった。

【考察】

透析患者の肺炎球菌ワクチンに対する関心度は若年でより高く、公費助成制度により接種の実施向上に貢献する可能性がある。